

千葉県RDB動物2006；絶滅動物種の生息環境と絶滅の原因(1)

	哺乳類	絶滅種	絶滅種の生息環境	絶滅の原因	第一	第二	第三	不明	一ニニニ	一ニニニ	一ニニニ
1	ヒナコモリ科	ヤマコモリ	(1956年市川市の樹洞で見つかったのが最後)	樹洞のある巨樹の減少、詳細不明	1						
2	イタチ科	ニホンカワウソ	河川下流・沿岸 (1947年陸沢川上市場での目撃が最後)	護岸、漁業、詳細は不明	1						
3	アシカ科	アシカ	沿岸域 (1907年頃の鏡子での目撃が最後)	護岸、漁業、詳細は不明	1						
鳥類											
4	サギ科	オオヨシゴイ	池、沼、川岸などヨシやガマの繁茂する湿地 (夏鳥)	土地利用の変化 宅地造成等によるため池の減少	1						
5	コウノトリ科	コウノトリ	水田や湿地 (冬鳥)	湿地・ため池の減少、農業による餌生物の減少	1	1			1		
6	トキ科	トキ	水田や湿地 (冬鳥)	湿地・ため池の減少、農業による餌生物の減少	1	1			1		
7	トキ科	クロトキ	水田や湿地 (冬鳥)	湿地・ため池の減少、農業による餌生物の減少	1	1			1		
8	カモ科	マガン	広い湖沼水田 (冬鳥)	湿地、ため池の減少	1	1			1		
9	カモ科	カリガネ	広い湖沼水田 (冬鳥)	湿地、ため池の減少	1	1			1		
10	カモ科	ヒシクイ	広い湖沼水田 (冬鳥)	湿地、ため池の減少	1	1			1		
11	カモ科	ハウガン	広い湖沼水田 (冬鳥)	湿地、ため池の減少	1	1			1		
12	カモ科	サカツラガン	広い湖沼水田 (冬鳥)	湿地、ため池の減少	1	1			1		
13	クイナ科	ヒメクイナ	池、沼、川岸などヨシや水草の繁茂する湿地	土地利用の変化 宅地造成等によるため池の減少	1	1			1		
14	シギ科	アオシギ	河川や湿地 (冬鳥)	繁殖地の環境変化 湿地、ため池の減少	1	1			1		
15	シギ科	コシギ	干潟、海岸、水田、湿地 (冬鳥)	湿地環境の減少	1	1			1		
16	ハト科	カラスハト	広い常緑広葉樹の森 (留鳥)	森林規模の減少	1						
17	ヤイロチョウ科	ヤイロチョウ	広い常緑広葉樹の森 (夏鳥)	森林規模の減少	1						
18	サンショウクイ科	サンショウクイ	落葉広葉樹の森 (夏鳥)	森林規模の減少	1						
19	モズ科	チゴモズ	開放的な草原と落葉広葉樹の森 (夏鳥)	草原の宅地化と森林規模の減少	1	1			1		
20	モズ科	アカモズ	開放的な草原と落葉広葉樹の森 (夏鳥)	草原の宅地化と森林規模の減少	1	1			1		
爬虫類											
21	スッポン科	スッポン	河川中流域・湿地繁殖 個体由来の可能性あり	湿地、ため池の減少、農業の使用による餌生物の減少	1	1			1		
魚類											
22	キス科	アオギス	東京湾にあった河口や干潟の周辺水域	広い面積の干潟の埋立て	1						
23	コイ科	ゼニタナゴ	平野部の浅い湖沼、水草の多い土水路	圃場整備等による生息環境の改変	1	1			1		
昆虫類											
24	アオイトトンボ科	コバナアオイトトンボ	平地から丘陵部 挺水植物の豊富な古い池	護岸、埋立て、周辺林の消失、水域の富栄養化	1						
25	カワトンボ科	アオハダトンボ	平地から丘陵部 水生植物の多い河川	護岸、水生植物の減少	1						
26	トンボ科	ベッコウトンボ	平地 挺水植物の豊富な池	水質の悪化、詳細は不明	1						
27	トンボ科	ミヤマアカネ	平地から丘陵部 水田とその周辺の土水路	詳細は不明				1			
28	トンボ科	オオキトンボ	平地から丘陵部 広い開放水面 深く挺水植物の豊富な池	護岸、水質の悪化、水生植物の減少	1						
29	バッタ科	アカハネバッタ	松林の中の草地	土地利用の変化、宅地化		1					
30	コバンムシ科	コバンムシ	平地挺水植物の多い池	外来種の侵入、水質の悪化、水生植物の減少	1		1		1		
31	ゲンゴロウ科	ゲンゴロウ	平地から丘陵部 水生植物の多い湿地、溜田やその周辺の土水路	外来種の侵入、水質の悪化、水生植物の減少	1	1	1				1
32	コガネムシ科	ダイコクコガネ	丘陵部 牛の放牧場	農業環境の変化		1					
33	ハムシ科	キイロネウイハムシ	平地 湧水起源の水生植物が豊富な湿地	埋立て、水域の富栄養化	1						
34	イエバエ科	クロイエバエ	平地牧場	土地利用の変化、宅地化		1					
35	イエバエ科	ミドリイエバエ	平地牧場	土地利用の変化、宅地化		1					

千葉県RDB動物2006：絶滅動物種の生息環境と絶滅の原因(2)

36	イエバエ科	コムドリイエバエ	平地牧場	土地利用の変化、宅地化	1						
37	イエバエ科	ノサシバエ	平地牧場	土地利用の変化、宅地化	1						
38	イエバエ科	ミナミサシバエ	平地牧場	土地利用の変化、宅地化	1						
39	クロバエ科	カエルキンバエ	平地湿田やその周辺の土水路、池沼	圃場整備等による寄主のカエルの著しい減少	1						
40	シロチョウ科	ツマグロキチョウ	平地から丘陵部河川敷や耕作地周辺の斜面	土地利用の変化、宅地化	1						
41	シジミチョウ科	クロシジミ	平地雑木林	土地利用の変化、宅地化	1						
42	タテハチョウ科	ウラギンシロウモン	丘陵地林縁の草地	土地利用の変化、宅地化	1						
43	タテハチョウ科	オウラギンシロウモン	丘陵地林縁の草地	土地利用の変化、宅地化	1						
44	タテハチョウ科	ヒョウモンモドキ	平地草地	土地利用の変化、宅地化	1						
45	ヒトリガ科	マエアカヒトリ	平地二次林	土地利用の変化、宅地化	1						
46	ヤガ科	ウスズミケンモン	平地二次林	土地利用の変化、宅地化	1						
甲殻類											
47	モクスガニ科	ハマガニ	汽水域	河口から海岸の埋立て	1						
多足類											
48	イッスンムカデ科	オオイッスンムカデ	平地（原記載以降消息不明）	詳細不明						1	
49	ツチムカデ科	チョウシンシジムカデ	平地（原記載以降消息不明）	詳細不明						1	
50	ツチムカデ科	ホソツチムカデ	平地（原記載以降消息不明）	詳細不明						1	
貝類											
51	アマオブネ科	ヒロクチカノコガイ	汽水域（東京湾）	海岸の埋立て（大面積）	1						
52	ウミニナ科	イボウミニナ	干潟潮間帯底泥	海岸の埋立て（大面積）	1						
53	フトヘナタリ科	クロヘナタリ	汽水域（東京湾）	海岸の埋立て（大面積）	1						
54	トウガタガイ科	シゲヤスイトカケガイ	干潟潮間帯底泥	海岸の埋立て（大面積）	1						
55	イソチドリ科	イソチドリ	潮下帯種	海岸の埋立て（大面積）	1						
56	ウツセミガイ科	ウツセミガイ	潮下帯種	海岸の埋立て（大面積）	1						
57	オカミミガイ科	オカミミガイ	汽水域（東京湾）	海岸の埋立て（大面積）	1						
58	イタボガキ科	イタボガキ	潮下帯種	海岸の埋立て（大面積）	1						
59	ザルガイ科	モクハチアオイ	潮下帯種	海岸の埋立て（大面積）	1						
60	ブンブクアドリガイ科	マゴコロガイ	汽水域（東京湾）	海岸の埋立て（大面積）	1						
61	バカガイ科	ユキガイ	干潟潮間帯底泥	海岸の埋立て（大面積）	1						
62	ニッコウガイ科	イチョウシラトリ	干潟潮間帯底泥	海岸の埋立て（大面積）	1						
63	ニッコウガイ科	アオサギガイ	潮下帯種	海岸の埋立て（大面積）	1						
64	イソシジミ科	オチバガイ	干潟潮間帯底泥	海岸の埋立て（大面積）	1						
65	イソシジミ科	ムラサキガイ	干潟潮間帯底泥	海岸の埋立て（大面積）	1						
66	イソシジミ科	フジナミガイ	干潟潮間帯底泥	海岸の埋立て（大面積）	1						
67	マルスダレガイ科	シオヤガイ	干潟潮間帯底泥	海岸の埋立て（大面積）	1						
68	マルスダレガイ科	シラオガイ	干潟潮間帯底泥	海岸の埋立て（大面積）	1						
69	マルスダレガイ科	ケマンガイ	干潟内湾砂礫底	海岸の埋立て（大面積）	1						
70	マルスダレガイ科	イオウハマグリ	干潟アマモ場	海岸の埋立て（大面積）	1						
71	マルスダレガイ科	オキアサリ	干潟内湾砂礫底	海岸の埋立て（大面積）	1						
72	マルスダレガイ科	ハマグリ	干潟内湾砂礫底	海岸の埋立て（大面積）	1						
73	マルスダレガイ科	ウラカガミ	潮下帯種	海岸の埋立て（大面積）	1						
74	マルスダレガイ科	イヨスダレ	潮下帯種	海岸の埋立て（大面積）	1						
					62	24	0	4	15	1	1
					45	8	0	4	15	1	1
											74